

釧路市立学校施設長寿命化計画（概要版）

1. 背景・目的等

①計画の背景・目的

釧路市では、現在、築30年を超えながらも大規模改造工事等が未実施の学校施設が約3割を占めており、老朽化の進行や施設設備の不具合などの課題を抱えています。

また、少子化などの社会状況、教育内容・方法の多様化などの教育環境に係る課題に対応した施設整備が求められている中、児童生徒の安心安全な教育環境の確保、学校施設全体の管理運営の適正化、財政負担の軽減、平準化を目的として、中長期的な整備計画である「釧路市立学校施設長寿命化計画」を策定しました。

②上位計画、関連計画

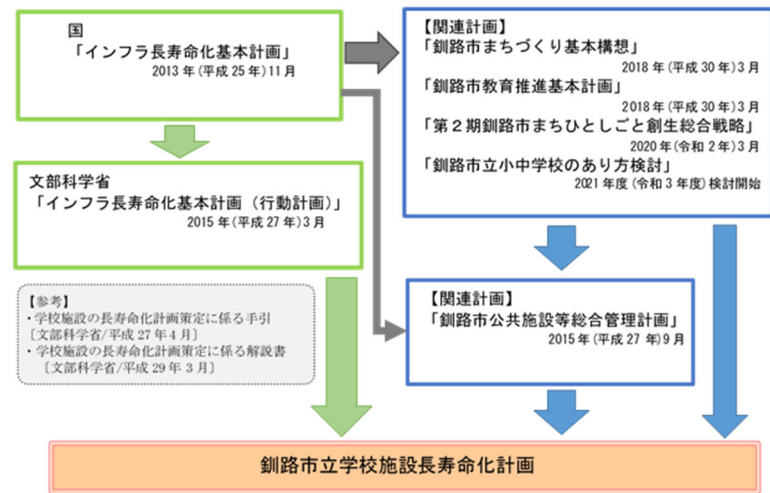
本計画は、国が示す上位計画や文部科学省の示す長寿命化の考え方、本市が策定した関連計画等との整合を図り策定しました。また、計画推進に当たっては、2021年度(令和3年度)より検討を開始する「釧路市立小中学校のあり方検討」との整合も図る必要があります。

③計画の期間

対象施設が今後必要な長寿命化改修等を行う目安となる40年間を見通した上で、2021年度(令和3年度)より10年間とします。

④対象施設

対象となる施設は、市内小学校26校、中学校15校、高等学校1校、幼稚園2園、給食施設3施設です。



【釧路市学校施設長寿命化計画の位置付け】

2. 目指すべき姿

学校施設の目指すべき姿

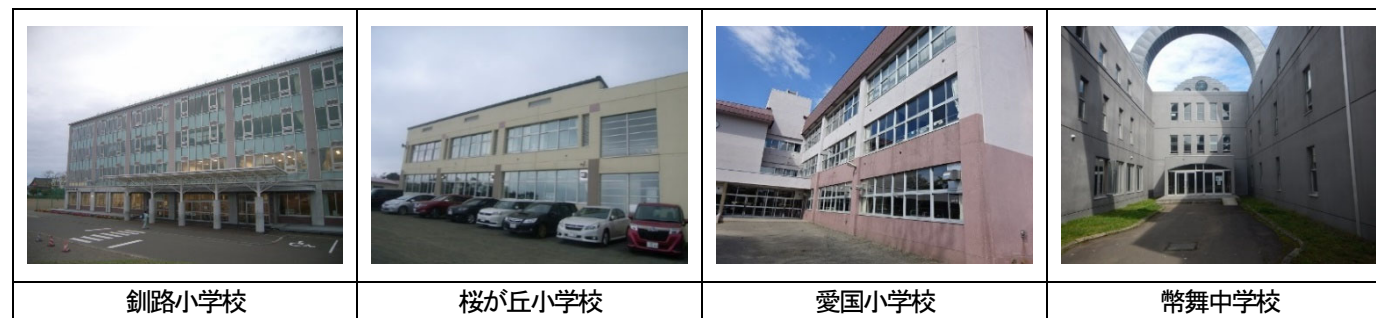
上位計画等との整合を図りつつ、文部科学省の「学校施設整備基本構想の在り方について(平成25年3月)」で示された内容を参考に右記のとおり定めました。

- (1) 安全・安心な学校施設
- (2) 多様な教育・学習形態に対応した学校施設
- (3) 誰もが快適に利用できる学校施設
- (4) 地域と共にある学校施設
- (5) 安全・安心な食を提供する給食施設

3. 学校施設の実態

学校施設の概要

学校施設の延床面積は、2020年(令和2年)5月1日現在、小学校154,750㎡、中学校95,080㎡、高等学校11,724㎡、幼稚園1,610㎡、給食施設3,566㎡となっており、合計延床面積は266,730㎡となっています。



【釧路市内の学校】

4. 基本的な考え方

①予防保全型の維持管理

学校施設を含む公共施設は、これまで不具合が発生した後に修繕や改修を実施する「事後保全型」の維持管理を行ってきましたが、今後は予め計画した時期に計画した部位の改修を実施する「予防保全型」の維持管理に転換していく必要があります。

本市においても、改修の程度を軽減する観点や費用を計画的に平準化する観点から、この観点を踏まえて維持管理を行っていきます。

②長寿命化改修等の基本的な方針

市の財政負担を軽減させるとともに施設を健全な状態に保ちつつ、可能な限り長く使い続けることを基本的な方針としました。

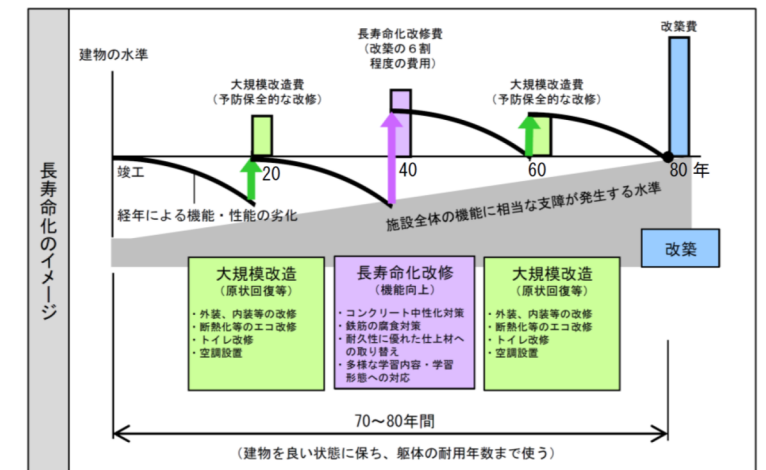
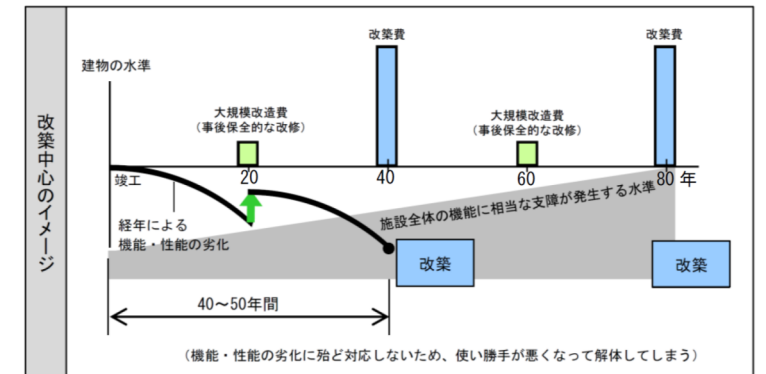
③目標使用年数の設定

これまでは、校舎等の建物の建替えを40～50年程度で実施してきましたが、本計画では、日本建築学会の「建築物の耐久計画に関する考え方」における「建築物全体の望ましい目標耐用年数の級」を参考として、80年程度と設定しました。

④改修周期の設定

建物を構成する部材には、使用部位や材質に応じた耐用年数の目安があり、その目安に基づいて計画的に更新することが建物の機能を維持し寿命を延ばすことにつながります。

屋根防水や外部塗装、設備機器等は、耐用年数がおおむね15～20年程度であることから、本計画における建物の標準的な改修周期をおおむね20年と設定しました。



【改築中心から長寿命化への転換イメージ】

5. 施設整備の水準

改修等の整備水準

本市の学校施設の整備は、劣化状況調査の結果を踏まえ、機能向上やコスト縮減などを考慮しながら進めていきます。

築年数や劣化の程度等は建物ごとに異なるため、実施設計段階において、個々の施設の状況に合わせた水準で整備を行います。

児童生徒の学習環境、教職員の執務環境、施設の維持管理等を考慮し、長寿命化や機能向上を図ります。

主な整備項目・水準

- | | |
|--------------|------------------|
| ◆老朽化に係る整備項目 | ◆機能向上に係る整備項目 |
| (1) 屋根・屋上 | (1) 教育環境向上 |
| (2) 外壁仕上 | (2) トイレ機能向上 |
| (3) 内部仕上 | (3) バリアフリー対策 |
| (4) 電気設備 | ◆地域の拠点性に係る整備事項 |
| (5) 機械設備 | 関連施設との機能集約など |
| ◆安全安心に係る整備項目 | ◆給食施設に係る整備項目 |
| (1) 防犯・安全対策 | 学校給食衛生管理基準に則した整備 |
| (2) 防災対策 | |

釧路市立学校施設長寿命化計画（概要版）

6. 長寿命化の実施計画

①建物部位の劣化状況

過年度実施の劣化状況調査から屋根屋上、外壁の劣化状況の例を右記に示します。広範囲に劣化が見られる部位はC評価、著しい劣化が見られる部位はD評価となります。

②学校施設の健全度の状況

対象となる学校施設のうち健全度60以上の建物は、全体の約8割を占めています。

また、健全度90以上の建物は全体の約4割を占めています。

これは、2012年度(平成24年度)より小中学校15校で実施した耐震改修工事及び大規模改造工事によるものです。

健全度	劣化の傾向
～39	全体的に劣化が進行している
40～59	各部位に劣化が見られる。特に屋根屋上・外壁の劣化が顕著である
60～79	屋根屋上・外壁に部分的に劣化が見られる。内部仕上、電気設備、機械設備は良好
80～	全体的に良好

【 健全度と劣化の傾向 】

C評価の例	D評価の例
	
外壁材の剥離・亀裂 鳥取西中学校	防水層の膨れ 愛国小学校
	
金属屋根の錆 朝陽小学校	水たまり 常舞中学校
	
防水材の劣化 青葉小学校	コンクリート壁の爆裂 常舞中学校

【 屋根屋上、外壁の劣化状況の例 】

③施設整備の優先度の考え方

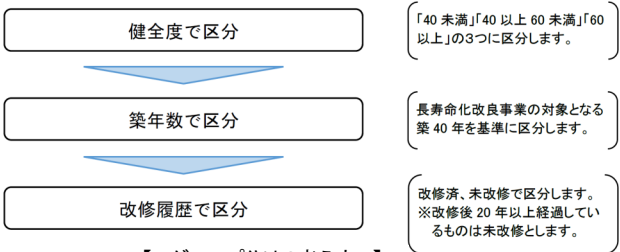
優先度は、各学校を棟ごとに「健全度」、「築年数」、「改修履歴」によるグループ分けを行い、改修等の効率性、予算の平準化等を総合的に勘案し設定しました。

優先すべき建物の整備の方針は以下のとおりです。

◆健全度60以下の学校は、長寿命化改修等の優先整備校に位置付け

◆D評価の学校は今後5年以内を目安に個別改修を検討

◆C評価の学校は劣化進行状況に応じて個別改修を検討



【 グループ分けの考え方 】

優先度	グループ	対象建物	
	②	中学校給食センター、常舞中学校	施設優先整備校
	④	阿寒幼稚園 愛国小学校 音別小学校	
	⑤	北陽高等学校、鳥取西中学校、共栄中学校、美原中学校、小学校給食センター、青葉小学校※、青陵中学校、清明小学校※、朝陽小学校	
	⑦	北中学校	
	⑧	芦野小学校、阿寒町給食センター、大楽毛小学校、新陽小学校、マリモ幼稚園、景雲中学校、光陽小学校、阿寒小学校	
	⑨	鳥取西小学校、音別中学校 鳥取中学校 桜が丘小学校 城山小学校、武佐小学校、昭和小学校、春採中学校、美原小学校、興津小学校、鳥取小学校、山花小中学校、大楽毛中学校、鶴野小学校、共栄小学校、桜が丘中学校	
	⑩	東雲小学校、阿寒中学校、釧路小学校、湖畔小学校、中央小学校、阿寒湖義務教育学校	

【 施設整備の優先度 】

※D評価の部位のある学校は太字下線表示しています。
※青葉小学校については、D評価の外壁部分の一部改修工事を2020年度に実施したことから、健全度を62として優先度を検討しています。
※清明小学校については、D評価の屋上部分の改修工事を2020年度に実施したことから、健全度を54として優先度を検討しています。

④今後の施設整備に係る試算

予防保全型の維持管理などにより、長寿命化改修工事などを行いながら、約80年程度建物を使用する長寿命化改修中心の施設整備を基本とします。

従来型施設整備を実施した場合と長寿命化型施設整備を実施した場合の今後40年間のコスト試算を行いました。

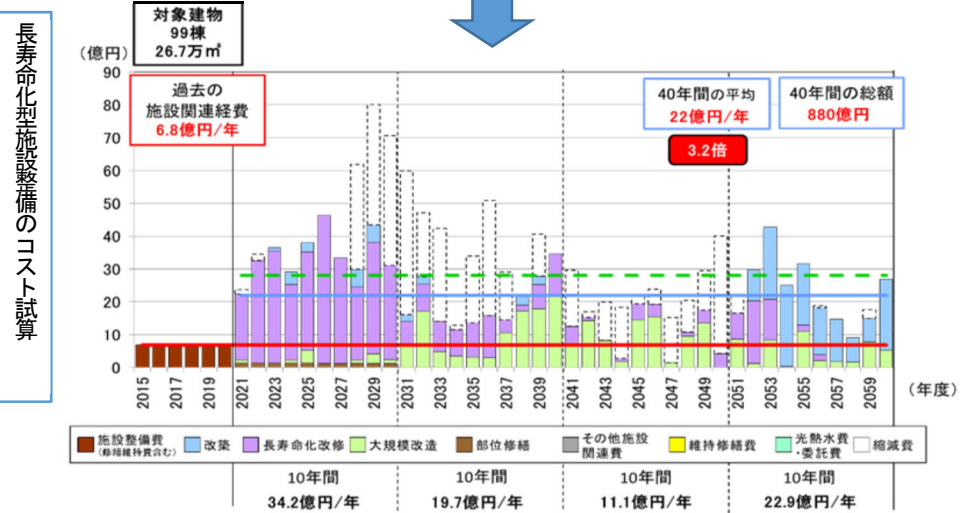
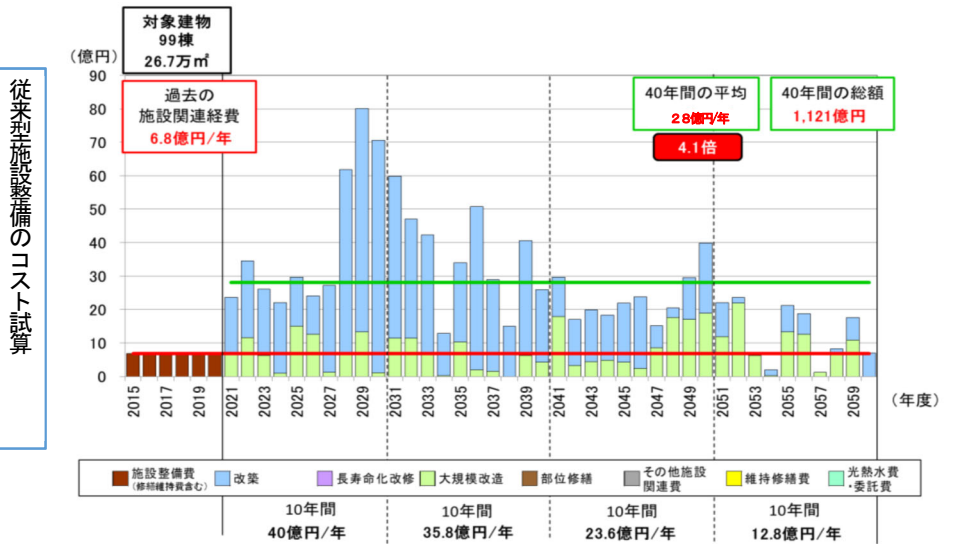
◆従来型施設整備のコスト試算

従来型施設整備を行った場合、今後40年間の総事業費は約1,121億円、平均年間事業費は、約28億円と試算されました。

◆長寿命化型施設整備のコスト試算

長寿命化型施設整備を行った場合、今後40年間の総事業費は約880億円、平均年間事業費は約22億円と試算され、従来型施設整備に比べ、241億円(約21%)の費用削減効果が見込まれます。

今後、児童生徒数の動向や「釧路市立小中学校のあり方検討」の結果の分析、情報収集など、更なる検討を深めていきます。



【 コスト試算の結果 】

7. 継続的運用の方針

①施設情報の一元管理と活用

本計画策定時に調査・整理した学校施設に係るデータベース(学校カルテ)で施設関連情報を一元的に管理し、右記の点に留意しながら本計画を継続的に運用していきます。

②フォローアップ

本計画は、学校施設整備の方向性を示すものであり、学校施設の維持保全や機能及び性能の向上を目指し、継続的に長寿命化改修などを進めていきます。

また、学校を取り巻く環境の変化や児童生徒数の動向、市の財政状況等に対応するため、PDCAサイクルを実施し、定期的に計画の進捗状況を確認・状況把握します。

留意点
◆建物老朽度などの定期点検情報の更新
◆日常点検や定期点検の実施
◆適切な維持管理の推進
◆計画推進に係る【 継続運用の留意点 】

Plan (計画策定)	長寿命化計画の策定・見直し
Do (計画実施)	計画に基づき、適切な改修や日常的な維持管理等の実施
Check (評価・検証)	整備による効果検証と、整備手法など改善すべき点について課題整理
Action (改善)	評価・検証結果をもとに、課題を洗い出し、必要があれば計画を見直す

【 フォローアップの手法 】